

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名	伊万里市立大川内小学校	C: やや不十分である D: 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上や心の教育において高い評価をいただいた。話し合い活動による授業の活性化、モジュール学習による基礎基本の積み重ねなどを大切にし、今後も継続させ、児童に力をつけさせなければならない。 ・ふるさと学習においては、学校を支えてくださる地域の方々への感謝の気持ちを児童だけでなく、教職員・保護者ももち、学校、家庭、地域で児童を育てている良さを今後も継続させていかなければならない。 ・これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に複数で取り組んでいく必要がある。また、情報モラルについては、児童に指導を行うだけでなく、育友会と連携し、保護者の方々に危機意識を持ってもらえるような取り組みを行わなければならない。 ・働き方改革の視点から、職員一人一人に超過勤務を削減する必要性の意識付けはできてきたが、その実現に向けた具体的な取り組み方の工夫を考える必要がある。	
2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 ～3つの笑顔で～	
3 本年度の重点目標	・大運動会や田んぼの学校などを中心に、地域の協力を受けながら、地域の「人・もの・こと」と連携した教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・すべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、家庭や地域との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子をしっかりと見取り、複数で対応していく。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期解決、再発防止を必ず複数体制で臨む。また、情報モラルに対する危機意識を学校だけでなく、保護者、地域を巻き込んで高める。	

4 重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価					
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ○自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための対話を取り入れた学びあひ活動の充実	○全国及び県の調査やCRT検査で、全国、県の平均値を上回ることを目指す。 ○対話を取り入れた学びあひ活動を校内研究の中心に位置づけ、取り組んでいく。		・校内研究教科の体育科を中心に児童が自らの考えをもち、仲間との対話で学びを進化させる授業を意識し、取り組み、他教科でも取り組む。 ・モジュール学習に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能を身につける。					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○85%以上の児童が、交流中、交流後にもつ感想において、誰もが交流した相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。		・異学年交流である縦割り活動や伊万里特別支援学校との交流などを行う中で、相手を感じる、思いやりや敬いの気持ちを育む。					
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見、早期解決、再発防止に努める。 ○「学校が楽しい」と回答する児童の割合が90%以上を目指す。		・月1回の「心のお天気アンケート」や年2回の「いじめ・教師の指導アンケート」、そして普段の関わりから、児童の学習、生活、友人関係等における悩みなどの把握に努める。 ・アンケート実施後、気になる児童についてはすぐに対応し、職員連絡会などで情報共有する。 ・家庭との連携を図るうえで、SCやSSWを効果的に活用していく。					
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上		・係活動や委員会活動などの学校における活動全般において、意図的に児童が活躍する場を設定し、承認される場を設ける。 ・担任、担当だけでなく、児童の頑張りが分かった職員は、必ず褒めるよう共通理解する。 ・キャリアパスポートを活用し、各学期のめあて、教科や行事、体験活動と関連付けて作業を行う。					
	○明るいあいさつと返事、そしてあたにかい言葉づかいで交流する児童の育成	○「明るいあいさつ」、「元氣な返事」ができている割合が、児童本人だけでなく、地域や保護者も80%以上に上る。 ○「言葉づかいに気をつけている」と回答する児童が80%以上、地域や保護者の割合を70%以上に上る。		・場に応じた言葉づかいやあいさつ、返事ができるように全職員が共通認識のもと、日常的に指導する。 ・学級指導や道徳を中心に児童の実態に合わせて指導し、自分の生活に目を向けさせ、意識の向上を図る。					
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食事をしている児童80%以上		・栄養教諭と連携し、低中学年を中心に食育の授業を実施する。 ・保健だより等で年間を通して食育を通じた健康づくりを呼びかける。 ・朝食喫食率を95%以上を目指す。					
	○望ましい生活習慣の形成	○中学校のテスト期間に合わせ、「SNSを利用した動画視聴削減週間」を設け、守ることができた児童が80%以上 ○アンケートで「外で遊んだり運動したりするのが好き」と回答する児童が85%以上		・便利さだけでなく、スマートフォンなど情報機器の長時間使用等が心身へ及ぼす影響について指導する。児童、そして保護者への削減週間を受け、アンケート調査を行う。 ・なかよしタイム(縦割り活動)や体育科の授業で運動に親しませ、体力の向上を図る。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・金曜日を定時退勤日とし、定時退勤を推奨する。 ・平日は19時を目安、また、月45時間以上の超過勤務が生じないよう呼びかける。 ・長期休業期間を中心に年次休暇の取得を呼びかける。					
	○会議、事務の効率化	○会議の超過時間「〇」を目指す。 ○会議資料や授業の教材等、校務サーバー内に置き、供覧することで効率化を図る。		・資料の事前配布、事前に読んでおくことの徹底、会議開始、終了時刻厳守の継続。 ・校務分掌や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。					
●特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画、指導計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を図るとともに、専門家の指導を通じて理解を深める。		・特別な配慮を要する児童をリストアップし、丁寧に見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画、指導計画について見直しを行う。 ・児童の現状を保護者と共有し、望ましいと考えられる就学について考える。					
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ふるさと学習の充実	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育	◎地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上に上る。		・田んぼの学校、各学年の発達に応じたふるさと学習、見守り隊の方とのふれあい等のよさに気づかせる。また、感謝の会を通して地域の方々への感謝の気持ちを育む。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となった活動等に組み込み、郷土への誇りを培う。					
○危機管理の強化	○交通安全等の指導 ○情報モラルの指導	○「交通安全に気を付けている」と思う児童、「危険から身を守る能力が身に付いている」と思う保護者を80%以上に上る。 ○情報モラルについて、十分に理解できている児童を90%以上に上る。		・地域の見守り隊の協力も得ながら、交通ルールについての声かけを常日頃行う。 ・交通教室、集団下校において、繰り返し、交通安全についての話を行う。 ・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。また、保護者と児童向けに情報モラル教室を行う。					
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									